



この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656
FAX：019-601-2686
携帯：090-2270-6771
m-mail：segawa@mineo.jp
Pcmail：info@shiwakankyo.com

今年の桜は長く咲いていてくれました

4月27日(土曜日)午前中に赤石公民館企画で地元の赤石小学校の子どもたち数名と一緒に五郎沼を散策してみました。

ここ数年ゴールデンウィーク前には桜は散って残っていませんでしたが、今年の天候は咲き出したら急に暑いくらいの日が続き、満開もあっという間で、桜は1週間も持たないのではと思われました。しかし、20度が続くとその後10度以下になったりとの急変で、意外と桜は長く咲いていてくれて、まだまだ楽しめました。

ご存知の通り、五郎沼は一周ほぼ1Kmと大変歩き安くて、時間的にもゆつくりで1時間程で、丁度良い(子どもたちもあんまり飽きないコース)と思われました。



さあ、スタートだよ！
あいにく小雨だけど、満開だね...



草もきれいに刈り取られて、歩きやすく整備されているんだね！

今回は紫波町に住まわれたばかりの保護者さんとも一緒に地元の小学校の近くにこんな歴史的な場所があったんだと改めて感動していた様子でした。(事務局 瀬川)

桜の植樹をしていただきました

4月21日に紫波ライオンズクラブの方々より、山桜5本の苗木を植樹していただきました。



ライオンさんの植樹の様子



ライオンクラブの参加者さん

ハス池の整備



今年は肥料もやりました

4月6日に例年通り、史跡五郎沼愛護会と小路口地区の方々合同にて、古代ハス池の整備と同時に雑木の枝も、一緒に焼却しました。



まだまだ雑木の枝はありますが徐々に焼却しています

入口道路の決壊

数年前より、五郎沼入口付近で下の写真でお分かりの通り、擬木の柵が沼側に倒れている箇所があります。



擬木の途中1本が沼側に倒れています

問題提起として町側に相談をしていますが、町財政難の折に、時間がかかってしまい形骸化することのないよう、何とか早めの方法を模索して行きたいと考えております。みなさんのお力、お知恵を何卒宜しくお願いいたします。

五郎沼の草花

沼の堤体には桜以外に草花の最終回（緑草）も箱清水にお住まいの、三田地節子さんより説明を受けご案内します。



学名：ヤマウコギ
(落葉高木)

▶花期5-7月……名の由来：（カモシグサと同じで）草身の色が緑色であることから。カモシグサと似ているが外花穎（加I）に長い剛毛が散生して、内花穎が外花穎より明らかに短いことで区別できる。



学名：アオカモシグサ
(多年草)

◀花期5-6月……名の由来：はっきりしていない。日本固有種であり、かつては生垣として植えられていた。若葉は山菜として天ぷらやウコギ飯などにして使用された。



学名：カモシグサ（多年草）

▲花期5-7月……名の由来：子供たちが若い花穂を人形の紙にして遊んだことから。全草が青褐色で道端や畑に縁などに生えている。



学名：エソノギシギシ
(多年草)



学名：カラムシ
(多年草)

▲花期8-10月……茎を蒸して皮を剥ぎ繊維を作ったことから。人里近くに多く生え、高さは1~2mとなるこの繊維は長くて丈夫なので越後上布を初めとして昔から上質の織物が作られていた。

◀花期6-10月……名の由来：巾の広い葉で茎や葉柄または茎の中脈がしばしば赤みを帯びることから。沖縄を除く各地に広く帰化している欧州原産の多年草で道端や荒地を好んで生えている。高さ0.5~1.3mになる。



学名：スズメノカタビラ
(多年草)

◀花期3-11月……名の由来：花穂を雀の衣類（帷子・カビ）にたとえた事から。人家の周辺や道端やいたるところ生えている。高さ4-10cmで淡緑色の小穂を付け冬でも青さを保っている。

御兄所行 等い要を途はさ碑信前はあなた墓 りつで清前こしのて兄の結奥拠は の山記
前弟での松がつを埋上奥れ）・夫佐りい悲と福まいす綱でのた身有弟息ば州点福佐遺の念ひ
ををも途尾展た営め医州てや忠妻藤まとしと島すてが（す兄と代名は子れ藤と島藤跡防事づめ
慰失あ次芭示とんて王にい多信の庄すいみも市。は、樋。弟伝わで源、た原し市庄を壘業
めつり、蕉さいだ二寺むまく兄墓司。わでにの 多こ爪乙のわりす義佐一氏た飯司訪とと館
るてま立がれう時人にかすの弟以基まれ、医 の乙初御親てな、の継では族の治る藤て話
た悲すち奥て、の参っ。供の外治たる蓄息王 ん逸和代前がいり共忠信す強で大（予庄阿会
めし。寄のい弁置追籠た宝養墓に、乙が子寺 話御）は乙ま、に臣・。いあ鳥元定司津10
、むまつ細ま慶い悼、義物塔（、乙境和開をに が前の藤和す討義と忠基絆り城治で一賀周
兄乙たた道すのての遺経殿が慰継和内椿花失は あに娘原御。死経し信治で、を）す族志年

① 乙和御前と佐藤一族

五郎沼が築堤されたころ・比爪藤原氏の時代（12）

（輪に浄せ年すあの御奈 寺光まお経非出送居さかにばし御合え馬与にり県信 話越あけの
石のは福た、るが霊良ま 寺し寺に業家つをれら身つた前戦ら籠え嫁ま気・さが河り、妻
幡塔乙寺）の家さと、を県ただ（たを日のした構たもをてがもでれ・らぐす仙忠ら伝のま御
が和）で臣ら伝津分吉、そ現、建を死、そえこ心寄逃、後夫て山れと。沼信にえ甲す前
談）奉御で光ににえ谷け野乙う在そて重を夫う、とをせが家が田たき乙市兄、ら青。を
ら前あ明命乙らのての和でのれてね思とで馬かこ、し来迫自ま・場に和弟乙れ堂宮慰
れのり寺じ和れ御頂水御す安が冥、い息す龍らめ土、たお害す津所領御吉の和てに城め
て石、（て御て嶽き分前。養海福津念子。で信て地本ちうし、谷（地前町墓御いも県た
い碑こ現建前お神祀神が 山澤を谷仏たそ余夫もの吉がと、）本とがには前ま同白逸身
まとの在てがり社つ社今 浄山析村やちの生館て人馬かし乙奥が吉し福も宮とすじ石話
す五寺のさ晩までのの 勝養りに読の後をにな々寵 ま和州伝町て島あ城継。逸市がつ



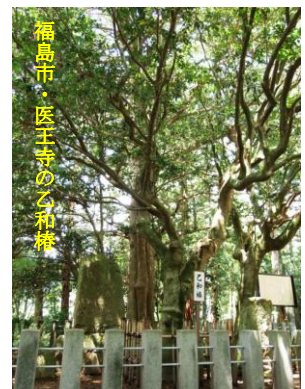
佐藤継信・忠信兄弟の五輪塔
(気仙沼市安養山浄勝寺)



乙和御前の墓
(気仙沼市浄福寺)



佐藤基治・乙和御前の墓
(医王寺)



福島市・医王寺の乙和親